

活動報告 英国実習 松平千佳

今回、レスターこども病院で一番印象深いことは、Neonatal Unit における実習です。この病棟を担当する HPS のアリーからは、未熟児の子どもでも遊びが必要であること、遊びを通して、親が子どもとかわかり親としての自信をつけていくことを、実践を通して学ぶことができました。日本ではよく「重症だから遊べない、小さすぎて遊べない」等など病院関係者から聞くが、レスターの Neonatal Unit では、優れた HPS が小さな赤ちゃんのためにチャイルドフレンドリーな環境を作り、細かな配慮と高い専門性をもって遊びを用いた支援を行っていました。特に優れた技術だと感じたのが、ダイアリー（日記）です。アリーはすべての入院児に日記をつけており、そこには体からとれた管がかわいい蝶ちょ結びになって貼られていたり、眼を開けた瞬間を写真に捉え「お母さんはどこ？」と子どもの気持ちを代弁する吹き出しをつけたり、お母さんが抱っこする様子を写真にとって、「気持ちがいいよ」とお母さんをエンパワーメントするメッセージをつけたり、ファミリーセンタードケアを実践するというこの意味を、アリーの指導のもと感覚として理解することができたと感じています。

レスターこども病院の待合室には、HPS が作成したエデュケーションボードが壁に張ってありました。そこには Why Play is Important（なぜ遊びが重要なのか）が説明されていました。

様々な領域の遊び活動は子どもの発達を促す。遊びは発達と学習のために必要である。遊びを通して子どもは自己肯定感を作り、また人とのかわかりを楽しむことができるようになる。遊びは満足感を作り出す。時間、空間、機会、そして許可があるところでは、遊びは子どもの本能である。子どもが自由に選んだ遊びはそれだけで子どもにとって愉快なことである。子どもには遊びが必要だし、子どもは遊びたい。

人間は生まれてから死ぬまで遊ぶ。子どもは何で遊びたいのかを決め、どうやって遊びたいのかも決める。体を使った遊びは子どもにとって体が動くので楽しい。また、身体を使った遊びを通して、子どもは挑戦すること、自分の限界を学ぶ。遊びの始まりは、子ども自身が決め、子どもは何をしたいのかを決め、どうやって遊ぶのかを決め、そしていつ次の遊びに移るのかも決める。外の環境や自然を探索することは、子どもの健康にとって必要不可欠である。遊びがなければ子どもは健康に成長発達しない。とくに、創造的な力や学習能力が阻害される。

遊びは子どもの権利である。

私たちの養成する HPS がこのような遊びの力をしっかりと理解し、日本の小児医療のチームの一員として活躍してくれることを期待するとともに、我々ももっと活躍できるよう、研究などを進めていかなければならないと改めて感じながら英国からの帰路につきました。

新しいスタッフからののごあいさつ HPS 事務局 鶴田禎人

博士課程まで経済学を専攻してきた私にとって、HPS 事業は未知で新鮮な領域です。しかし、そもそも経済学には、すべての人が平和に人間らしく生きる権利を保障され、他者との共同のなかで自律的に人生を築き上げることができる社会の仕組みを考えるという発達保障の役割が与えられてきました。私は、そのような「人間発達の経済学」の立場から、子どもの遊ぶ権利を保障し、彼らの発達を支える専門職である HPS に大きな魅力と可能性を感じています。これから、日本においても HPS が活躍し、子どもの権利・発達の保障がもっと進むように、事務局の一員として研究・事業支援を行っていきたくと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



インフォメーション

平成22年2月15日(月)から第5クール HPS 養成講座が始まります。
聴講も現在受け付けております。

第5クール：平成22年2月15日(月)～3月18日(木)



〒422-8021 静岡県駿河区小鹿 2-2-1
静岡県立大学短期大学部 HPS Japan 養成教育事業事務局
tel: 054 (202) 2652 mail: hps-japan@u-shizuoka-ken.ac.jp
担当: 松平千佳、江原勝幸、中村仁美

文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託事業



ニュースレター News Letter

http://bambi.u-shizuoka-ken.ac.jp/hps_site/



この人に聞く インタビュー

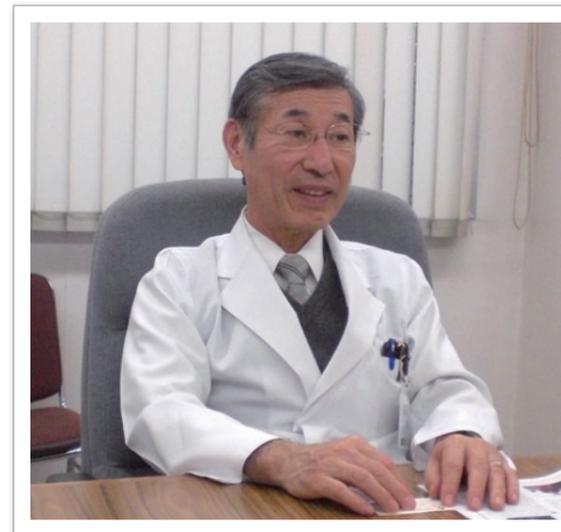
静岡県立総合病院 病院長
神原啓文 先生

Q 県立総合病院における療養環境への取り組みについて、ご紹介いただけますか？

県立総合病院は、本館が建築されてから 27 年が経過し、古くなったり、使い勝手の悪いところが出てきました。そこで現在、改修工事を進めているところで、小児科病棟も改装しています。具体的には、設計・構成は変えず、内装を改めたり、床を張り替えたり、2 部屋に一つのトイレを設けるなどしてアメニティを高めようとしています。触ると反応する人形なども購入し、療養環境を改善する動きを進めています。また小児科外来は、千葉大学工学部の柳澤先生に設計いただき、写真にあるように一新しました。

Q 県立総合病院では、第1期 HPS 養成講座での修了者が活動しています。現在の活動をどのようにご覧になっていますか？

HPS は当初、プレイルームでの活動に留まっていた、直接医療に関与することはありませんでした。私もそこで対応している姿を何度か見てきました。そうした中で一歩踏み込んで、現在では医療に入ってもらい、採血の場面などでディストラクションなどをも行なっています。あらゆる患者さんにおいて心の癒し、手助けをする支援チームは必要だと思います。特に子どもの場合は成人とは異なり、コミュニケーションが難しい。また、話せばわかるとは限らない複雑な愛情やテクニックもいるので、HPS は必要と考えます。お子さんが楽に診療に協力できて、病院をネガティブなところではなく、日常の一つとしてとってもらえれば、彼らの人生の継続にとっても



良いのではと考えています。痛い目にあつたといったダメージを与えるのは非常によくありません。ポジティブに病院を受け止めてほしいですね。こうした点で、HPS は貴重な役割を果たしていると思いますし、小児科医師は高く評価しています。実際、親御さんからは、子どもが苦痛なく過ごすことができた、そういった意見が寄せられているとも聞いています。



↑ 静岡県立総合病院 小児科外来

▶ 次のページへ



静岡県立総合病院 病院長
神原啓文 先生

Q 「全国自治体病院協議会雑誌」2009年8月号の「緑陰随想」でHPSをご紹介しますね。

私は医療安全を基本に据えて病院運営を行なっています。HPSは、この医療安全につながるものでもあり、本院において、HPSは価値ある役割を果たしています。その様子を他の多くの小児科の医師やスタッフに見てもらいたいと思います。そもそもHPSはわが国にないシステムであり、全国的に紹介したいと思いました。雑誌は、全国約1000の自治体病院に配布されるものです。各病院には10～20部配布されています。関係者・関連部署にはわたったものと思います。

Q 日本におけるHPSの課題は何でしょうか？

HPSに携わる人が少ない状態では評価されません。まずは全体の数、従事者を増やすことが大切です。数が増える、つまりはHPSが根を張ってくると社会的にも認められてくるはず。社会的に認められれば病院としても認めるようになり、新たな雇用へと広がると考えます。

HPSを雇用する場合、最終的にその経費が診療報酬につながればよいのですが、その実現にはまだ時間を要します。保育士を雇用している病院はけっこうあると思いますので、そこで、彼女らにプラスアルファしてもらう、HPSを身につけてもらうこともあって良いと考えます。医師に対してだけでなく、看護師へも理解を広めることが求められます。看護協会関係でも、そうした動きをしていけば認知されていくのではと思います。それが進めば、必要性が高まっていくでしょう。

医療界では各種の認定教育が進められています。HPS認定看護師を考えるのはどうでしょうか。それに興味もっている人に参加してもらおうと良いでしょう。



活動報告 松平千佳 英国実習

2009年8月5日～15日

2009年の8月9日より3週間にわたり、University Hospitals of Leicester NHS TRUST 附属こども病院のプレイサービス部門と、エジンバラこども病院でHPSの実習をおこなってきました。この実習は、Hospital Play Specialist Education TrustがHPS養成指導者のための養成実習として位置付けた200時間に当たるものです。

レスターにあるこども病院には35名のHPS（常勤、非常勤あわせて）がプレイサービス部に所属しています。2名のプレイコーディネーター15名のシニアHPS養成訓練を受けたもの）と18名のHPSからなる大きなプレイチームでした。



レスターでの実習内容

02/08/09 09:00 - 15:30	Rachel Lilley Senior Play Specialist	Welcome to the Children's Hospital Weekend working arrangements discussed. Ward 11 surgical ward and on-call bleep (日帰り手術病棟)
03/08/09 07:30 - 17:30	Karen Mills Senior Play Specialist	Ward 12 High Dependency Ward and Children's Intensive Care Unit (小児集中治療室)
04/08/09 07:30 - 17:00	Karen Mills Senior Play Specialist	Ward 12 High Dependency Ward and Children's Intensive Care Unit (小児集中治療室) Introduction to Sally Markley Play coordinator and discussion on Play Service
05/08/09 07:30 - 17:00	Sally Markley, Play co-ordinator & Rachel Lilley Senior Play Specialist	Ward 8 Surgical and medical day ward (外科病棟) Theatre preparations, medical procedure preparations and distractions
06/08/09 7:30 - 17:00	Sally Markley, Play co-ordinator & Rachel Lilley Senior Play Specialist	Ward 8 Surgical and medical day ward (外科病棟) Theatre preparations, medical procedure preparations and distractions
07/08/09 14:00 - 22:00	Judy Barker Senior Play Specialist	Children's Accident & Emergency Department (小児救急外来)
08/08/09 10:00 - 18:00	Claire Evans Senior Play Specialist	Children's Accident & Emergency Department (小児救急外来)

10/08/09 07:30 - 15:30	Helen Young Senior Play Specialist	Children's Oncology Ward (小児癌病棟) 14.00 meeting with Tina Clegg Service Manager & Vanessa Roberts, Play Co-ordinators
11/08/09 07:30 - 15:30	Helen Young Senior Play Specialist	Children's Oncology Ward (小児癌病棟)
12/08/09 07:30 - 18:00	Aly Edwards Senior Play Specialist	Neonatal Unit (新生児病棟)
13/08/09 08:00 - 16:00	Vanessa Roberts Play co-ordinator	Children's Out-patients (小児科外来)
14/08/09 08:00 - 16:00	Sally Markley Play co-ordinator	Children's Out-patients (小児科外来) Lunch with Tina, Vanessa, & Sally to evaluate visit.

▶ 次のページへ

